

2011年2月18日

安威川流域治水について  
流域住民と行政との「協働会議」設置の要請

大阪府知事 橋下 徹殿

1967年北摂豪雨を契機として始まった安威川ダム事業は周辺整備事業がほぼ終了し、本体工事を残すのみとなっています。しかしこの44年間の歳月の経過の中で、日本の河川行政も地球温暖化に伴う気候変化等に起因する集中豪雨の多発による計画や施設規模を上回る洪水の発生に備え、河川対策、流域対策に加え、減災対策など総合的な治水対策推進の必要性に迫られ、また安威川流域についても河川改修、井堰撤去、堤防補強等が実施され、現在では既往最大降雨については、支川も含め対応済みになるなど流域の治水を巡る状況も改善されています。

もとより安威川流域治水については今後、「大阪府河川整備委員会」において、本格審議が始まるものと考えますが、この機会に是非とも、現地の事情や過去の歴史を熟知する流域住民と行政との「協働会議」を設置され、広く意見交換する場とされることを要請します。

なお「協働会議」には、私たちの市民組織や個人だけでなく、さまざまな団体・個人・専門家等を、また大阪府においても都市整備部河川室・ダム砂防課、ダム建設事務所のみならず、道路・農林・環境・教育・都市・防災・下水道等治水に関係する部局すべての参画を期待します。さらにこの組織は公開性、平等性、透明性、協働性、この4つの性格をすべて合わせ持ち、この場で、住民と行政が一体となって、「安威川流域の総合的な治水対策」を協働して検討することを願っています。

最後に、環境保全は21世紀を考える時、あらゆる施策の原則としていかなければならないことです。その意味で、これからの治水を考える時、環境保全と治水の両立にこそ叡智を集めることが必要です。そして、これをみんなが同じテーブルで議論しアイデアを出し合いながら考えて行く必要があります。私たち市民組織と個人は、その思いを本要請に託します。

以 上

◎流域要請団体（2011年2月18日現在）

安威川の自然を守るネットワーク（代表：江菅洋一）

安威川ダム反対市民の会（代表：江菅洋一）

茨木の治水を考える会（代表：野村東洋夫）

安威川の治水を考える流域連絡会（代表：畑中孝雄）

（茨木母親大会連絡会、茨木教職員組合、大阪府職員労働組合北摂地区協議会、茨木労働組合総連合、茨木民主商工会、茨木診療所友の会、茨木診療所、大阪年金者組合茨木支部、新日本婦人の会茨木支部、府保労とんぼ分会）

◎要請全国賛同団体（2011年2月18日現在）

大阪自然環境保全協会（代表：高田直俊）

槇尾川ダムの見直しを求める連絡会

市民の広場（代表：増田京子）

自然愛・環境問題研究所

国土問題研究会（代表：奥西一夫）

◎2月11日つどい賛同者 個人71名（2011年2月18日現在）